

更生施設 けやき荘 保護施設通所事業 (定員:通所14人・訪問1人) [平成28年度事業報告]

1 事業総括

利用実績は通所新規8人・延長6人、訪問新規0人・延長1人と前年度と大きな変化はない。定員に余裕がないため、月初定員確保に向けた開始と終了の調整が難しいことが課題となっている。支援においては、施設生活からスムーズかつ段階的に地域生活へ移行し、更に身近な社会資源へ繋げて地域社会で孤立しないように意識している。28年度終了者7人のうち2人が長期入院となったほかは、3人が一般就労・デイケア通所・OG支援事業、2人が地区担当保健師にそれぞれ繋がり、7割以上が地域生活への定着を果たし、利用を終結している。けやき荘本体の機能、ステップハウス、社会復帰促進事業と一体的に事業運営することで、利用者の特性や課題に応じたきめ細やかなサービス提供と支援を展開した。

	定員		28年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						27年度実績 新規開始数 (対定員利用率)						
	通所	訪問	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	14人		12	12	13	13	13	12	14	13	13	14	14	14	13.08
訪問		1人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.00

2 主要目標に対する成果

- (1) 安定した自立生活のため、地域・関係機関とネットワークを組んで支援
実施機関との情報共有はもちろんのこと、実施機関が移管されるような場合や入院時など、利用者が不安に感じることを無いう、医療機関の受診状況や就労状況、生活費や家賃の取り扱いなど、地域生活に滞りがないよう、きめ細かい支援を実施した。
- (2) プログラム・所内作業や各種行事を通じた潤いのある生活継続の支援
母体となる更生施設の機能を最大限活用し、午前の所内作業、午後の多様なプログラムメニューを軸に通所したくなる日中活動を提供。また通所独自の月例ミーティングでは利用者相互の関係を活かしたミニ行事を実施。年2回の歩行会のほか、防災講座、地域センターを利用した調理実習、クリスマス会、新年会を実施し、利用者計画参加型の行事を意識した。
- (3) 訪問看護や作業所等地域の社会資源を活用した地域に根付いた支援の実施
通所訪問事業終了後の生活を常に見据え、事業利用中から徐々に他の福祉サービスへ移行させていく、“緩やかな地域移行”を念頭に社会資源の導入を支援した。
- (4) 利用者個々の状況に応じた支援・サービスの提供とOG支援事業での継続支援
居宅訪問時には通所ルートやスーパー・医療機関・出張所の位置、避難場所などを一緒に確認。個々の自立度や居住地域の特性を把握し、理解した上での個別支援をおこなった。

3 運営管理

- (1) 更生施設機能を活用した日常の援助
 - ①自主製品作りを主体とした所内作業、ヨガや歌、刺子、華道、茶道などボランティアを取り入れた日中活動を提供。
 - ②看護師・栄養士・嘱託医と連携し、体調変化に速やかに対応。看護師、栄養士も含めた居宅訪問を実施し、服薬自己管理の確認や食生活改善への取り組みをおこなった。
 - ③服薬管理を実施した者は延べ10人、食事・入浴サービスも常時利用があった。
 - ④バックアップセンター施設利用者支援事業のうち特に、住宅相談の利用は5件あった。
- (2) 地域生活移行への支援
ステップハウス2部屋と社会復帰促進事業を活用し、将来的なアパート転宅地域を想定して支援を使い分け、よりアパートに近い環境での生活訓練と段階的な社会資源の導入を同時におこなえる環境として最大限活用。ステップハウスは年間で4人と常時利用者があった。
- (3) OG支援事業での支援
現在、4人がOGとして作業や食事、行事などに参加しており、うち3人は3～6年の利用となっている。
- (4) その他
延べ3人の利用者が入院した為、救急対応や入院先訪問、アパートを留守にする間の光熱水費の手続き、家賃支払い等の対応をおこなった。

